

平成25年3月期 第2四半期連結決算概要

1. 連結決算実績 (24年4月～24年9月)

(1) 全体概要 (24年9月末現在連結会社数：連結子会社65社、持分法適用関連会社5社) (単位：百万m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	6,998	6,940	58	0.8	6,431
売上高	8,637	7,483	1,154	15.4	7,687
営業利益	650	17	633	—	469
経常利益	670	19	651	—	593
四半期純利益	399	△49	448	—	374
1株当たり四半期純利益	15.53	△1.89	17.42	—	14.54
1株当たり純資産	334.50	324.67	9.83	3.0	275.17

(注) 1株当たり純資産は24年3月期末との比較

<当四半期決算のポイント(対前年同期)>増収は3期連続、増益は3期ぶり。

ガス販売量、売上高、各利益とも歴代1位(これまでの過去最高はガス販売量・売上高がH23、各利益がH18)。

- ① ガス販売量は、連結子会社の電力事業向けガス販売の商流一部見直しによる減少があったものの、千葉～鹿島ライン開通に伴う新規需要や発電用需要の増加、及び震災後の落ち込みからの回復等により、0.8%増加しました。売上高は、原油価格上昇に伴う原料費調整による売上単価増(665億円)等により、都市ガス売上高が739億円増の6,283億円となったことに加え、電力需給逼迫時対応による電力販売の増加等その他エネルギー売上高が236億円増加したこと等から、15.4%増の8,637億円となりました。
- ② 営業費用は、ガス原材料費が原油高の影響により280億円増加したこと、及び電力販売の増加に伴う燃料費の増加等その他エネルギーに関わる費用が150億円増加したこと等から、7.0%増の7,986億円となりました。この結果、営業利益は633億円増の650億円となり、これに営業外損益を加減算し、経常利益は651億円増の670億円となりました。
- ③ これに加え、特別利益として29億円(関係会社株式売却益)、特別損失として51億円(投資有価証券評価損46億円他)[前年同期は特別利益はなし、特別損失48億円(投資有価証券評価損)]を計上し、法人税等を計上した結果、四半期純利益は399億円となりました(前年同期は49億円の純損失)。
- ④ なお、中間配当金につきましては、1株当たり4.5円といたします(年間予定9円)。

(2) ガス販売量(販売量は45MJ/m³表記)

		当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
お客さま件数		千件	10,900	10,777	123
ガス販売量	家庭用	百万m ³	1,336	1,317	19
	業務用	百万m ³	1,383	1,348	35
	工業用	百万m ³	3,359	3,358	1
	計	百万m ³	4,743	4,707	36
	他事業者向供給	百万m ³	919	916	3
	合計	百万m ³	6,998	6,940	58
平均気温		℃	22.9	22.6	0.3

- ① 家庭用需要は、震災後の落ち込みからの回復及びお客さま件数の増加等により、1.5%増加しました。
- ② 業務用需要は、震災後の落ち込みからの回復により既存設備の稼働が増加し、2.6%増加しました。
- ③ 工業用需要は、連結子会社の電力事業向けガス販売の商流一部見直しによる減少があったものの、千葉～鹿島ライン開通に伴う新規需要や発電用需要の増加等により、ほぼ前年同期並みとなりました。
- ④ 他事業者向供給は、供給先事業者の需要増等により0.3%増加しました。

(3) 収支概要(都市ガス以外の内訳は「(4)部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用) (単位：億円)

収益		増減	増減率(%)	費用		増減	増減率(%)	
都市ガス	6,283	739	13.3	都市ガス	原材料費	3,733	280	8.1
				都市ガス	その他	1,903	△45	△2.3
				都市ガス	計	5,637	236	4.4
都市ガス以外	3,543	543	18.1	都市ガス以外	3,330	408	14.0	
事業間内部消去	△1,190	△129	—	全社費用	222	2	1.0	
売上高	8,637	1,154	15.4	事業間内部消去	△1,204	△127	—	
				営業費用	7,986	520	7.0	
				営業利益	650	633	—	
営業外収益	98	13	15.6	営業外費用	78	△5	△5.7	
				経常利益	670	651	—	
特別利益	29	29	—	特別損失	51	3	7.2	
				四半期純利益	399	448	—	

(4) 部門別の概況 (単位：億円)

	売上高				セグメント利益			
	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
都市ガス	6,283	5,544	739	13.3	646	142	504	353.1
器具及びガス工事	933	776	157	20.3	14	5	9	180.3
その他エネルギー	1,578	1,342	236	17.6	118	32	86	269.3
不動産	150	147	3	1.8	33	26	7	27.5
その他	880	734	146	20.0	47	15	32	213.7
都市ガス以外	3,543	3,000	543	18.1	212	78	134	172.4

(注) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、セグメント利益の算出には配賦不能営業費用を含んでいません。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
為替レート(円/\$)	79.41	79.75	△0.34	△0.4
原油価格(\$/bbl)	113.97	113.93	0.04	—
設備投資(億円)	755	585	170	29.0
有利子負債(億円)	6,390	6,258	132	2.1
その他有価証券評価益(億円)	176	216	△40	△18.5
営業キャッシュ・フロー(億円)	1,071	672	399	59.2
ROA(%)	2.2	—	—	—
ROE(%)	4.7	—	—	—

(注1) 営業キャッシュ・フロー＝四半期純利益＋減価償却費等

(注2) 有利子負債、その他有価証券評価益は24年3月期末との比較

2. 通期(25年3月期)の業績予想

<業績予想のポイント>

- 業績予想は連結・個別ともに対前期「増収増益」の見通し。
(以下は、対前回(7/31発表時)業績予想)
- ガス販売量は、個別における冬期の業務用需要の見直し等、及び連結子会社における電力事業向けガス販売量の増加等により0.8%増加の見通し。
- 連結業績予想は個別および連結子会社の業績予想の見直しに伴い、売上高は2.5%増加、経常利益は11.6%増加の見通し。
- 個別業績予想は、経済フレームを原油高に見直したため、原料費調整により売上単価が上昇し、ガス売上高が1.6%増加するものの、原材料費がガス売上高の増加を上回る2.9%の増加となる見通し。一方、電力売上高等が増加し、経常利益は4.1%増加の見通し。
- 経済フレームは、10月以降為替レート80円/\$、原油価格110\$/bblと想定。

(単位：百万m³、億円)

	連結決算						(参考)個別決算			
	通期 業績予想	対前期		対前回(7/31発表時)		通期 業績予想	対前期		対前回(7/31発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
ガス販売量	15,135	△55	△0.4	117	0.8	13,971	212	1.5	24	0.2
売上高	18,900	1,358	7.7	460	2.5	16,700	1,197	7.7	390	2.4
都市ガス	13,661	599	4.6	251	1.9	12,860	695	5.7	200	1.6
都市ガス以外	5,239	760	16.9	209	4.2	3,840	502	15.0	190	5.2
営業利益	1,520	750	97.2	120	8.6	1,160	646	125.7	50	4.5
経常利益	1,540	784	103.6	160	11.6	1,270	671	111.9	50	4.1
当期純利益	990	530	114.9	110	12.5	840	483	135.3	30	3.7

(注) 事業間の内部取引高は都市ガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回 通期見通し	対前期		対前回(7/31発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
為替レート(円/\$)	79.71	0.63	0.8	△0.34	△0.4
原油価格(\$/bbl)	111.99	△2.18	△1.9	6.35	6.0

(注1) 為替レート：前期実績79.08円/\$、前回見通し80.05円/\$ 為替+1円/\$の3Q以降への収支影響：△12億円(売上高26億円、原料費38億円)

(注2) 原油価格：前期実績114.17\$/bbl、前回見通し105.64\$/bbl 原油+1\$/bblの3Q以降への収支影響：△10億円(売上高6億円、原料費16億円)